

99番の歌 数え尽くせない仲間たち

バプテスマの後にぶつかる問題に備える

「あなたの道をしっかりとどれるようにしてください」。詩編 17:5

ポイント：バプテスマを受けたばかりの人は、クリスチャンとしてぶつかる問題を見越してどんな準備ができますか。

1-2. クリスチャンとしてぶつかる問題を見越してどんな準備ができますか。

サタンが支配する世界には問題が付きものです。イエスはその現実を踏まえて、「信仰を妨げるものが生じるのは仕方ありません」と言いました。（マタ 18:7 世は、信仰の妨げとなっているので、災いがあります！もちろん、信仰を妨げるものが生じるのは仕方ありませんが、その経路となる人には災いがあります！）それで、大変な問題が起きた時のために準備をしておくことは大切です。会衆の中で問題が起きることもあります。

2 例えで考えてみましょう。私たちは、日頃から自然災害に備えるようにしています。どんなふうに準備していますか。まず、自分が住んでいる地域で①どんな災害が起きそうか知るようになります。引っ越してきたばかりの人にとってそれは特に大切なことです。どんな災害の危険があるかが分かったら、それぞれの②災害にどう備えるかを考えます。（格 21:5 勤勉な人の計画は必ず成功(*良いこと)につながり、せっちな人は必ず貧乏へと向かう。）クリスチャンとしてぶつかる問題にも同じような対策ができます。まず、①どんな問題が起きそうか予想します。そして、②実際に起きた時のために準備をしておきます。そうすれば、被害を最小限に食い止めてエホバとの絆を守れます。（詩 17:5 私がつまづかないで、あなたの道をしっかりとどれるようにしてください。）では①起きそうな3つの問題と、それに備えて②どんなことができるかを考えましょう

*この記事は最近バプテスマを受けた人に向けて書かれていますが、誰にとっても役立ちます。

仲間に傷つけられる時

3. 会衆でどんなことが起きることがありますか。

3 初めて集会に行った時のことを覚えていますか。エホバの証人の温かい愛に触れて、これは本物の宗教だと思ったかもしれません。（ヨハ 13:35 あなたたちの間に愛があれば、全ての人は、あなたが私の弟子であることを知ります）。コロ 3:12 それで、皆さんは神に選ばれ、神に愛される聖なる人たちですから、温かい思いやり、親切、謙遜さ、温和、辛抱強さを身に着けましょう。）ブランカ*名前は変えてあります。姉妹もそうでした。でもバプテスマを受けた後、思ってもみなかったことが起きました。こう言っています。「ある姉妹からとても嫌なことをされまし

た。姉妹はほかの兄弟姉妹のことも悪く言っていました。エホバの証人はみんな優しく仲良くしていると思っていたので、とてもショックでした」。兄弟姉妹はクリスチャンとしての人格を磨こうと頑張っています。でも、誰も完璧ではありません。(エフェ 4:23, 24 考え方を新しくする努力を続けましょう。24 そして、新しい人格を身に着けましょう。その人格は神の意志に沿って形作られる(*創造された)ものであり、本当の正しさと忠実さ(*揺るぎない思い)に基づいています。ヨハ 1:8 自分には罪がない」と言うなら、私たちは自分を欺いているのであり、心の中に真理がありません。)それで、人を傷つけるようなことを言ったりしたりしてしまうことがあります。(ヤコ 3:8 しかし、舌を従わせることは誰にもできません。舌は手に負えない有害なもので、死をもたらす毒で満ちています。)そういう現実を目の当たりにして、エホバに仕えるのをやめてしまった人もいます。

4. 兄弟姉妹に傷つけられることは十分にあり得ます。その時に備えてどんなことができますか。(エフェソス 4:32)

4 兄弟姉妹に傷つけられることは十分にあり得ます。そういう時に備えて何ができるでしょうか。エフェソス 4 章 32 節 親切な人になり、温かい思いやりを示し合い、神がキリストによって寛大に許してくださったように、寛大に許し合ひましょう。のアドバイスの通りにすることを心掛けましょう。(読む。)いつも仲間を思いやり親切にしていれば、人との摩擦が起きにくくなります。気に障るようなことをされても、気持ちよく許すようにしましょう。考えてみてください。私たちが間違いを犯し、許してくださいと祈るたびに、エホバは気持ちよく許してくれたのではないのでしょうか。(マタ 6:12 私たちに罪を犯した人たちを私たちが許しましたように、私たちの罪をお許してください。)自分がどれだけエホバから許されているかを考えると、ほかの人のことも許しやすくなります。

5. 誰かに傷つけられた時、聖書のどんな言葉が役立ちますか。(格言 19:11) (写真も参照。)

5 格言 19:11 洞察力があればすぐに怒ることはない。過ち(*違反)を見過ごす(d*通り過ぎる)人は美しい。を読む。洞察力*洞察力は、表面に表れていないものを見る力のことです。人の言動の背後にあるものを理解するのに役立ちます。があれば誰かに傷つけられてもすぐに怒ることはない、と聖書は言っています。数年前にバプテスマを受けたリマ姉妹にとってこの聖句が役立ちました。こう言っています。「兄弟姉妹から傷つくようなことをされた時は、格言 19 章 11 節を思い出すようにしています。その人がどんな生い立ちなのか、今どんな状況に置かれているのか、どうしてそういうことをしてしまうのかを考えます。一緒に伝道して、その人のことをよく知るようにもしています」。普段から兄弟姉妹のことをよく知るようにするのはいいことです。そうしていると、何か傷つくようなことをされても許しやすくなります。



兄弟姉妹とうまくいっていないと思う時は、その人と一緒に伝道してみるのはどうですか。(5 節を参照)

6. 会衆の兄弟姉妹と仲良くやっっていくために何ができますか。

6 会衆の兄弟姉妹と仲良くやっっていくために何ができるでしょうか。みんなの良いところに注目するようにしましょう（格言 10:12 憎しみは口論を引き起こし、愛は全ての違反を許す(d*覆う)と比較。ロマ 12:10 兄弟愛を抱いて、優しい愛情を示し合ひましょう。自分の方から進んで人を敬ってください。フィリ 2:2, 3では、同じ思いを持ち、同じ愛を抱き、完全に一致し、同じ考え方をすることによって、私を喜びで満たしてください。3 対抗心を抱いたり、自己中心的になったりしてはなりません。謙遜になり、自分より他の人の方が上だと考えてください。）バプテスマを受けたばかりのマーク兄弟は、そうしてよかったですと感じました。会衆の仲間を知るにつれて、兄弟姉妹の嫌なところが目につくようになっていきました。でも、兄弟はみんなと距離を置こうとはしませんでした。こう言っています。「兄弟姉妹の小さな欠点をいちいち気にしていました。でも、世の中の人がしていることと比べれば、兄弟姉妹の言動は全然気にするようなレベルではありません。それで、あら探しをするんじゃなくて、仲間のいいところを見ようと思いました」。私たちもそんなふうになれば、みんなと仲良くやっていけます。

捨てたものに未練を感じる時

7. 何がきっかけで、捨てたものに未練を感じるがありますか。

7 エホバの証人になった時、サタンの世界から抜け出せてほっとしたはずです。あんな所にはもう二度と戻りたくない、と思ったかもしれません。でも、クリスチャンになって大変な経験をすると、エホバに仕えるために捨てたものを思い出し、心が揺れるかもかもしれません。（民数記 11:4-6 民の中にいたさまざまな外国人が利己的な願望を口に、イスラエル人も泣いてこう言い出した。「誰が肉を食べさせてくれるのか。5 エジプトでただで食べていた魚が本当に懐かしい。それに、キュウリやスイカ、ネギ、タマネギ、ニンニクもだ。6 それが今、私たちは痩せ衰えている。目にするのはこのマナばかりだ」と比較。）捨てたものは人によって違います。例えば、給料が良くて一目置かれるような仕事を辞めた人がいます。聖書を学ぶようになって、友達を失った人もいます。良くない習慣を断ち切った人もいます。そうやって捨てたものに未練を感じてエホバから離れてしまうとしたら、本当に残念です。では、せっかく捨てたものをまた拾い上げたりしないために何ができるでしょうか。

8. アブラハムとサラから何が学べますか。

8 聖書にも、捨てたものに未練を感じてもおかしくなかった人たちが出てきます。例えば、アブラハムとサラはエホバの命令に従って安全な都市ウルを離れ、天幕生活をしました。（へブ 11:8, 9 信仰によってアブラハムは、神に招かれた時に従い、神から与えられることになる場所へ向かいました。行き先も知らないまま出掛けたのです。9 そして信仰によって、約束の地で外国人として暮らし、自分と同じ約束を与えられたイサクやヤコブと共に天幕に住みました。）快適だったウルでの暮らしをふと思い出すこともあったはずです。とはいえ、そういうことを「いつも思い出して」過去を懐かしんでばかりいたら、ウルに帰りたいという気持ちが強くなったかもしれません。でも、2人は過去を振り返るのではなく、将来に目を向けていました。（へブ 11:15,

16 もし彼らが、後にした場所をいつも思い出していたのであれば、帰る機会もあったことでしょう。16 しかし今、彼らは、より良い場所、つまり天と関わりのある場所を切望しています。それで神は、彼らを恥じてはおらず、彼らから神として呼び掛けられることも恥じていません。彼らのために都市を用意しています。)

9. パウロはエホバに仕えるために手放したものについてどう思っていましたか。 (フィリピ 3:7, 8, 13)

9 **パウロはエホバに仕えるために生き方を大きく変えました。** クリスマンになる前、パウロは尊敬されていた**律法教師のガマリエルから教えを受けました。** (使徒 22:3 「私はユダヤ人で、キリキアのタルソスで生まれましたが、この都でガマリエルから直接教えられ、先祖の律法について厳格な教えを受けており、今の皆さんと同じように神に対して熱心です。’) そのままいけば、**ユダヤ教での高い立場に就けたはずです。** (ガラ 1:13, 14 皆さんは、私がユダヤ教徒だった頃の振る舞いについて聞いています。私は神の会衆を激しく迫害し、荒らしていました。14 そして、多くの同年代の同胞よりもユダヤ教に打ち込み、はるかに熱心に父祖たちの伝統に従っていました。’) **でも、良い知らせを受け入れ、全てを手放しました。** その**後穏やかな日々を送ったか**というと、**そうではありません。** パウロは**殴打**され、**拘禁**され、同じユダヤ人たちから**憎ま**れました (コリ二 11:23-26 彼らはキリストの奉仕者ですか。私は狂人のように言いますが、私の方がはるかに優れた奉仕者です。私の方がたくさん働き、多く拘禁されました。数え切れないほど殴打され、何度も死にかけました。24 ユダヤ人たちからむちで**39回**打たれたことが**5度**、**25** 棒で打たれたことが**3度**、石を投げ付けられたことが**1度**、難船したことが**3度**あり、一昼夜海上を漂ったこともあります。26 何度も旅をし、川での危険、強盗の危険、同胞からの危険、異国の人々からの危険、町での危険、荒野での危険、海での危険、偽兄弟からの危険に遭い、) もし**パウロが大変なことにばかり目を向けて昔と今を比べていたら、クリスマンになったのは間違いだった**と思った**か**もしれません。でも、そんなことは**ありません**でした。パウロは**今イエスに仕えられている栄誉と明るい未来に目を向け**続けていました。パウロは、**今持っているものは、手放したものよりはるかに価値があると確信**していました (フィリピ 3:7, 8 **しかし私は、得だと思っていた事柄を、キリストのゆえに、損だと思うようになり**(if*喜んで捨て)ました。8 **それどころか、主であるキリスト・イエスについての知識に極めて大きな価値があるので、ほかの何もかもを損だと思っています。**私はキリストのためにあらゆるものを失いましたが、そうしたものを**多くのくずのようだ**と思っています。キリストを得て、**13** 兄弟たち、私は賞を得たとは思っていませんが、**1つのことは確かです。私は後ろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、読む**

10. どんなことをよく考えるといいですか。 (マルコ 10:29, 30) (写真も参照。)

10 **パウロから何を学べる**でしょうか。捨てるものに**未練を感じる**時は、**どうして**そういうものを**捨てたのか**、**思い出**してみてください。(伝 7:10 「昔の方が良かった」と言ってはならない。そのように言うのは知恵のあることではないからだ。’) **過去に手放したもの**と、クリスマンになったから**そ手に入れられた素晴らしいものを比べて**みてください。例えば、誰よりも高い地位にいる**①エホバとの友情**があります。(格 3:32 **エホバは、欺く人をひどく嫌い、正直な人たちを親しい友とする**からである。’) **②愛情あふれる家族**が世界中にいます。(マルコ 10:29, 30 **イエ**

スは言った。「はっきり言いますが、私のため、また良い知らせのために、家、兄弟、姉妹、母親、父親、子供、あるいは畑に別れを告げた人は皆、³⁰今この時期に(*現在)百倍を、家、兄弟、姉妹、母親、子供、畑を迫害と共に得て、新しい体制で永遠の命を得ます。を読む) ③**希望にあふれる未来**があります。(イザ 65:21-23 人々は家を建てて住み、ブドウ園を造って実を食べる。²²建てた家に他人が住むことはなく、植えた物を他人が食べることもない。私の民の**寿命は木の寿命**のようになり、私が選んだ者たちは**働く喜びを存分に味わう**。²³彼らは**無駄に(*無意味に)**労苦することはなく、生まれる子たちが苦しむこともない。彼らとその子孫は、エホバに祝福された民だからである。) どれも**エホバに仕えているからこそ持っているもの**です。そういうものの**ありがたみをよく考える**なら、捨てたものに引かれる気持ちはだんだん薄れていくでしょう。



手放したものについてあれこれ考えるよりも、**エホバが任せてくれた伝道という仕事を楽しみま**しょう。(10節を参照) *写真や挿絵: 伝道をしている姉妹が**スポーツチームの試合の様子を見て、**かつての自分を思い出している。その後、**昔のチームメートの女性に聖書について話している。**

11. ローズマリー姉妹からどんなことが学べますか。

11 **ローズマリー**姉妹は **50代の時にバプテスマ**を受けました。こう言っています。①「しばらくは**クリスマスができなくて寂しかった**です。**家族みんなで集まる特別な時間**だったからです。みんなに**プレゼントをあげる**のも楽しみでした。子供たちがクリスマスツリーの周りで**プレゼントをうれしそうに開けるのを見るのが好き**でした」。姉妹はどうしたのでしょうか。「クリスマスができないなら、**別の時に家族と一緒に過ごそう**と思いました。**毎年、クリスマス以外の日に**家族を家に呼んで**プレゼントを渡して、感謝の気持ちを伝える**ようにしています」。②姉妹は別の寂しさも感じていました。「**聖書を学ぶようになって、長い付き合いだった友達が離れて**いきました。そういう友達のことを**思い出して切なくなる**ことがありました」。*会衆のみんながレッスン生やバプテスマを受けたばかりの人を温かく気遣うことは大事です。「ものみの塔」2021年3月号の「バプテスマを目指して進歩するよう、会衆全体で助ける」という記事の**15, 16節**を参照。それでローズマリー姉妹は、**いろんな姉妹を誘って一緒に伝道**するようになりました。「そんなふうにして、**かけがえのない大切な友達**ができました」。何が学べますか。**クリスチャンになったためにできなくなったこと**があつて、**寂しく思うかも**しれません。でも、**それに代わるもの、もっと楽しいもの**がきっと**見つかるはず**です。(フィリ 4:8, 9 最後に、兄弟たち、**真実なこと(*ことは何でも)、真面目なこと、正しいこと、清いこと、愛すべきこと、立派なこと、高潔なこと、称賛に値すること**について、考え続けてください。9 皆さんが私から学んだことや受け入れたこと、また見たり聞いたりしたことを、実践してください。そうすれば、**平和の神が共にいてくださいます。**) **忘れないでください。エホバはあなたが手放したものよりはるかに多くのものを必ず与えて**くれます。

ほかの人がエホバから離れた時

12. 会衆でどんな残念なことが起きることがありますか。

12 エホバの証人になった時、汚れ切った世の中から抜け出して、オアシスのような所に来られたと思って安心できたはずです。(イザ 65:14 私に仕える者たちは心が晴れやか(*良い状態)なので喜んで叫ぶが、あなたたちは心が痛むので叫び声を上げ、意気をくじかれて泣きわめく。) でも、会衆の中で何も悪いことが起きないというわけではありません。重大な過ちを犯して、会衆から除かれる人もいます。(コリ 5:13 神が外部の人たちを裁くではありませんか。「皆さんの中から悪い人を除きなさい」。) サマール姉妹の会衆でもそういうことが起きました。こう言っています。「私がバプテスマを受けて少しした頃、ある長老が会衆から除かれました。まさか長老がエホバと会衆に対して罪を犯すなんてと思ってショックでした」。もちろん私たちは、仲間がエホバを愛し、エホバから離れたくないと思っていることを信じています。(コリ 13:4 愛は辛抱強く、親切です。愛は嫉妬しません。愛は自慢せず、思い上がりせず、7 愛は全てのことに耐え、全てのことを信じ、全てのことを希望し、全てのことを忍耐します。) それでも、毎年会衆から除かれる人がいるというのも事実です。もし身近な人や尊敬している人がエホバから離れてしまうと、気持ちがかき乱されるものです。

13. 身近な人がエホバから離れてしまっても、エホバにしっかり付いていられるように何ができますか。

13 身近な人がエホバから離れてしまった時も自分はエホバにしっかり付いていられるように、今のうちから何ができますか。エホバとの強い絆を育てることです。(ヤコ 4:8 神に近づいてください。そうすれば、神は近づいてくださいます。罪人たち、手を清めてください。優柔不断な人たち、心を清めてください。)ほかの人の信仰に頼ってしまうなら、自分と神とのしっかりした絆を持つことができません。それで、家族や会衆のみんなでエホバを崇拝するだけでなく、1人で祈り、聖書を読む習慣を大切にしましょう。(詩 1:2 その人はエホバの律法を喜び、昼も夜も小声で読む(*思い巡らす); 62:8 民よ、いつでも神に頼れ。あなたの気持ちを全て神に伝えよ。神は私たちの避難所。(セラ)) (聖書を定期的に楽しく読めるように工夫する)

14. ペテロからどんなことを学べますか。(ヨハネ 6:66-68)

14 多くの弟子たちがイエスに従うのをやめてしまった時、ペテロはどうしたでしょうか。ヨハネ 6章 66-68節 このために、弟子のうち多くの人が以前の事柄に戻っていき、もはやイエスと共に歩もうとはしなかった。67 それでイエスは12人に言った。「あなたたちも去っていきたいですか」。68 シモン・ペテロが答えた。「主よ、私たちは誰の所に行けばよいのでしょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っています。には、ペテロが何と言ったかが書かれています。(読む。) もちろんペテロも少し動揺したかもしれません。でもペテロは、ほかの人がどうするかではなく、イエスから教えられた真理に思いを向けました。それで、イエスに従うのをやめませんでした。ペテロから学べることがあります。ほかの人がどんなことをするとしても、エホバが組織を通して教えてくれた真理の価値は変わりません。その真理を大切にしましょう。前に出てきたサマール姉妹はこう言っています。「誰かが悪いことをしたとしても、会衆や組織全体が間違っている

というわけではありません。エホバのせいです。そういうことが起きるわけでもありません。そのことを忘れないようにしています」。

15. エミリー姉妹から どんなことを学べますか。

15. **エミリー** 姉妹の例を考えてみましょう。姉妹が**バプテスマ**を受けてわずか1週間後、**母親**が**家族**を捨て、**会衆**から**除か**れました。姉妹はこう言っています。「信じられませんでした。こんな**つらい**思いをしたのは初めてです。**母**がいなくて**寂しい**です」。姉妹にとって何が支えになっているのでしょうか。こう言っています。「私は**独りぼっち**じゃありません。**優しい父**がいますし、会衆の**兄弟姉妹**は**本当の家族**みたいですよ。**みんな**もいろいろ**大変**です。だから、独りでいるんじゃないくて、**支え合うことが大事**だと思います」。(ペテロ 5:9 揺るぎない信仰を持ち、悪魔に立ち向かってください。ご存じの通り、世界中にいる、信仰で結ばれた兄弟たちが、同じような苦しみを経験しています。) **大変なことが起きる前から、仲間との絆を強める**ようにしましょう。そうしていれば、**何かつらいことがあった時**、みんなが**力**になってくれます。

16. どんなことを覚えておくといいですか。(写真も参照。)

16. **エホバ**が**誰か**を**正す**のは、**その人を愛している**からです。(ヘブ 12:6 **エホバ**(*)は**愛する人**を**矯正**するからだ。ご自分が子として迎え入れる人を**皆むち打つ**(*罰する)のである) **エホバ**は**会衆**から**除かれた人**みんなに**戻って**きてほしいと思っています。(ペテロ 3:9 **エホバ**(*)は**約束**を果たすのが遅いと考える人もいますが、そうではありません。神は、一人も**滅ぼされる**ことなく、**全ての人**が**悔い改める**ことを望んでいるので、皆さんのことを辛抱しているのです。) もし**身近な人**が**会衆**から**除かれてしまった**としても、**エホバ**のもとに**戻って**こられるよう、**長老**たちが**手を尽くして**くれます。そのことを忘れないようにしましょう。(テモニ 2:24, 25 **主の奴隷**は**争う必要**はありません。必要なのは、**誰にでも穏やかに**(*巧みに)**接**すること、**教える資格**があること、**不当な扱い**を受けても**自分を抑える**こと、25 **好意的でない人**たちを**温和な態度**で教えることです。もしかしたら神は、**その人**たちが**悔い改めて**(*考えを変えて)**真理の正確な知識**を得られるようにされるかもしれません。)



身近な人が会衆から除かれたとしても、その人が**エホバのもとに**戻れるよう**長老**たちが**助けてくれる**ことを忘れない。

(16節を参照) *写真や挿絵: **2人の長老**が、**会衆から除かれた男性**を訪ね、**エホバのもとに戻るよう**勧めている。

17. 試練が立ちはだかるとしても、どんなことは確かですか。

17. **バプテスマ**を受けた**後**に**ぶつかる問題**は、**ほかにも**あります。自分はやっていけるだろうか、と思うこともあるかもしれません。でも**しっかり準備**しておけば、**心配**しなくて**大丈夫**です。そ

れに、あなたには最強の味方がいます。エホバです。これまであなたを助けてくれたエホバは、これからもずっと助けてくれます。(ペテロ 5:10 皆さんの少しの間苦しんだ後、惜しめない親切に満ちる神は、皆さんの訓練を終えます。永遠の栄光を与えるためにキリストを通して招いてくださった神が、皆さんをしっかりと人、強い人、揺らぐことのない人にしてくださるのです。)

大変なことがあっても、負けずに頑張るための力をくれます。エホバに助けてもらえば、どんな試練が立ちまわっても、エホバとの絆が断ち切られることはありません。(詩 119:165 豊かな平和はあなたの律法を愛する人たちのもの。その人たちはどんなものにもつまづかない(*その人たちにとって信仰を妨げるものはない)。ロマ 8:38, 39 私は確信しています。死も、生も、天使も、政府も、今あるものも、これから来るものも、力も、高さも、深さも、ほかのどんな創造物も、主であるキリスト・イエスを通して示される神の愛から私たちを引き離すことはできません

次のような時に備えて何ができますか

1. 仲間に傷つけられる時

- ・S04 兄弟姉妹に傷つけられることは十分にあり得るが、いつも仲間を思いやり親切にするために自分がどれだけエホバから許されているかを考える。
- ・S05 傷つくようなことをされても、格 19:11 (洞察力があればすぐに怒ることはない。過ち(*違反)を見過ごす(d*通り過ぎる)人は美しい)を思い出し、その人がどんな生い立ちなのか、今どんな状況に置かれているのか、どうしてそういうことをしてしまうのかを考える。一緒に伝道などして、普段から兄弟姉妹のことをよく知るようにする。
- ・S06 あら探しをせず、仲間の良いところに注目する。

2. 捨てたものに未練を感じる時

- ・S08 安全な都市ウルを離れて進んで天幕生活をしたアブラハムとサラのように、過去を振り返るのではなく、将来に目を向ける。
- ・S09 エホバに仕えるために良い知らせを受け入れ、社会的な立場など全てを手放し、宣教での様々な苦難を経験したパウロに倣える。イエスに仕えられている栄誉と明るい未来に目を向け続け、今持っているものは、手放したものよりはるかに価値があると確信している。
- ・S10 捨てたものに未練を感じる時は、どうしてそういうものを捨てたのか、思い出してみる。エホバに仕えているからこそ持っている、①エホバとの友情、②世界中に居る愛情あふれる家族、③希望にあふれる未来などについてよく考え感謝する。
- ・S11 エホバが手放したものよりはるかに多くのものを必ず与えてくださることを、忘れない。

3. 誰かが会衆から除かれた時

- ・S13 ほかの人の信仰に頼らず、自分と神とのしっかりと絆を育てる。家族や会衆のみんなでエホバを崇拝するだけでなく、1人で祈り、聖書を読む習慣を大切にする。
- ・S14 誰かが悪いことをしたとしても、会衆や組織全体が間違っているという訳でも、エホバのせいだ、そういうことが起きる訳でもないことを忘れない。
- ・S15 親族が会衆から除かれるなど大変なことが起きる前から、支え合える仲間との絆を強めておく。
- ・S16 もし身近な人が会衆から除かれても、エホバのもとに戻ってこられるよう、長老たちが手を尽くしてくださることを忘れない。